慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	伊豫史精義(景浦直孝著, 伊豫史籍刊行會發行)
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1925
Jtitle	史学 Vol.4, No.2 (1925. 5) ,p.144(304)- 144(304)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19250500-0144

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

れたのを記されたのではなく(一)、(二)、(三)の話はトメキチの傳承であり(四)から(九)に至る間はタウクノの傳承であり、(十)はヲカルパの物語なのである。是等大系の間に挿入されてゐる、類話、別傳、異傳等についても一々確實なる傳承者を擧げられてゐるのは著者が、白い雪に埋もれた北海道で寒氣と戰ひながら最後の勝利を得られた苦心努力を語るものである。其の內容の記述法は前記によりても知られるように、先づ、大系の話を書いて、その話に關する別傳、或は類話、或は又異傳等を列擧して其の比較研究に便ならしめ、それによつて私のような全然、無定見、無知識な者の頭にも春霞のように、ポンヤリと彼等の生活信仰をそうかしらんと想像させて頂く事が出來るのである。著者も又、そういふ心持で此の物語を譯されたのでなからうかと思はれるのは此の書の最後に「既に述べた數十篇の說話で見るやうに、アイヌラツクルに關する色々樣々の傳へは、同一人の事功としては、いくら神人の事だとしても、不可能であるほど多すぎる。また述べ方の上には、甲が乙と必ずしも何の交涉がない。それ故、各々の傳へを皆事實とするには、どうしてもアイヌラツクルを少くとも二人以上に了解しないでは出來ない」といふような比較研究のひらめきが見えるのでも分ると思ふ。著者は單に此の物語を述べられるのを目的とせずに、其の物語からアイヌの生活、信仰等いろ〳〵なものに觸れようとせられたのである。そして其の決心に背く事なく成功しておられるのが此の著述なのである、心なしか。雜司ヶ谷に眠つてゐるアイヌ乙女の嬉しさを示してゐるのであらうか、暗い凄い冬の夜に名も知らぬ、又、見た事もなかつた星が一つ、淋しい、嬉しさうに輝いてゐるのが見える。

(大正十二、十二、十九　曾根研三識)

伊豫史精義(景浦直孝著　伊豫史籍刊行會發行)

量に愛媛縣史の編纂にたづさはり、現に伊豫史談會の幹部として知られる稚桃景浦直孝氏は過去十餘年間の研鑽の結晶たる伊豫史精義なる約千頁の著書を公にせられた。今其の書を一覽するに同國の有史以前より近代に至る迄の事實は網羅せられ、實に其の精義の名に背かず、學界有益の書たるは云ふまでも無い。

本書は緒論、有史以前、大和朝廷時代、律令撰定時代、奈良時代、平安時代、源平時代、鎌倉時代、南北朝時代、室町時代、戰國時代　織豐時代、江戸時代、明治以後に大別し、更にこれを章節に分かつて記述せられ、其の緒論に於ては「鄕土史の意義に就いて」、「鄕土史に對する主張」、「鄕土史研究に際しては左の諸點に注意すべし」の三說に就いて論述せられてゐる。猶卷末に「伊豫史研究重要史籍」が附せられ、これは伊豫に關する諸書の解題で參考となるところが多い。この外追加補正、索引も添へられてゐる。本書の內容の詳細に就いては異日に讓り、今は單に本書の學界にあらはれたるを紹介し、謹んで本著者に敬意を表するものである。

(大正十四、四、一　武田勝藏)

香川縣史蹟名勝天然紀念物調査報告第二(香川縣同調査會編)

本書は第一篇史蹟及名勝の部、第二篇天然記念物の部の兩篇に